

96. 2/11 全国協議会・報告

長谷川文昭

「都民の会」代表江頭さんの代理で行きましたので、長谷川から報告します。

参加者：高崎政弘・香月陽一郎・林冬彦・藤岡裕三・安定可人（・高山晃一）・真野裕輔・石田憲作・古賀（・小笠原雅彦）・関・杉本慧子・徳田洋子・小林・瀬野・村瀬・鈴木・長谷川文昭（参加者氏名は未確認のままです。括弧内の方は都合があつて、会議の前に朝帰った。）

<新幹線は、米原から雪で京都過ぎまで、徐行運転だった。>岡山の牛窓のペンションで、全国連絡会があつた。素晴らしい人達に出会った。（実は、2/10中・四国エリアの会合、岡山9人・広島7人・四国6人、に便乗しての開催だった。<このことが、良い結果を生んだ様だ。>）高崎さんが今回買って出てる、全国的集約としての提案は、旧会としての95/6以降の<系の切れた風>の様な状況、即ち「大前さんも無念に思ってる」を汲んで、誰かがどうにかしないとイケない状態に放置されたことへの提案だった。高崎さんの「見るに見兼ねて」でスタートしてる。彼はその呼び掛けで、全国の仲間に連絡するのに1回10万円程掛かるという。そうまでしても声を掛ける姿勢は、大いに賛同する。経費に拘る訳ではないが、早急に

1. 大前研一通信の購読者を対象に、県単位の連絡窓口を作りたい。

2. 大前通信の最後のページを全国連絡会の表現の場としても提供してもらった。そこに窓口情報を掲載する。

3. ツールとしての封筒を作りたい。相互に確認できた連絡窓口は、ロゴ・マーク入りの名刺を作る。

4. 今回、確認の上（交渉して確保しようとした、）住所録は「いらない。」

5. 運営は、寄付でしたい。今後、向研会との協調・協力しあうことも前向きに考えて行きたい。

6. 出来れば、林冬彦さんを全国の情報センターとして認知してはどうか。

等々の大まかな確認事項が成立した。ところで、むしろメインになされた（と僕が感じる）意見交換が別途あつた。

「ピュア一性と妥協性」を巡ってのことだ。大前研一通信の購読者を前提にこの全国組織を立ち上げ様とすることと、必ずしも大前研一通信の購読者でない人を含む各地域組織を認めるのかとの、ズレ＝断層をどう理解するかだ。その点に関して、賢明な提案が、中・四国の人達から飛び入りで>出された。

私見を含めてそのこと（ピュアと妥協）を述べると、この事は、何ということはない事のようにだが、水と油に見えてしまう。確かに、水と油のの違いがあるのは事実だし、それが問題だ。ならば、自然に分離するかといえ、しないのだ。

何故なら大局的＝歴史の方向性は、益々の攪拌の状況にあるからだ。

ところで、95/6に少なくとも当時の会員は<それ>を選択せざるを得なかった。しなかった人は結果として離れて行ったのだ。それだけのことだ。口先だけのことなく、厳肅なる<意思決定>は、されていたのだ。その事実・現実を見れば充分である。今更、何をか言わんやで

ある。架空の想像よりも事実である。一方、ことばで言う「リストラ」も結構だが、その目的・基準は明確でなく。

<下心の無い、大前支持者を組織化する。> 否、目的意識的な利用者を「排除」と言っても、相手はどうとしてでも・イヤラシクも・くっ付いて来るのだから。利用される一歩先を、より「生き方」として大前研一（在り方）に近づく努力をわれわれはすべきである。事実を積み重ねていくことが、彼らとの関係を明白にすることだ。所詮、水と油なのだから。

先日、2/15パネルディスカッション「行政情報はなぜ公開されるべきか」（弁護士会館）へ行って、<行政府が作る「情報公開法」（議員立法でなく――骨抜きにされた・キーポイントが外された、それ）>を確認して来た。「泥棒に、刑法を（おまかせして）つくらせる」ことの無意味さ・現実を再認識した、スタンスを市民運動の場・生活者へ置くべきである。出だしの「素晴らしい人達（賢明な提案）」とは、それを自覚した人達の意味である。各地域では色々な切り口で、他の地域の人達と会合を持ち相互の立場を確認しあうことが大切な様に思う。一般的に既存の運動主体は、余りにも政治主義で、個人性（と社会性）が欠如している。

編集後記

今号で再び発行が大幅に遅れました事をおわびします。作業時間がどうにも確保できず、このような事態となつてしまいました。

印刷費・郵送費以外の予算が計上できない現状では、どうがんばってもこの様な事態の再発が起こり得るので、会報の編集・制作システムを根本から見直してみようと考えております。かといつてこれまで作り上げてきた一定のクオリティも確保したいというのが頭の痛いところです。

具体的には、会報委員会を検討しますが、会員の皆様も具体的提案があればお寄せ下さい。

内容的には「住専市民集会」のレポートなどがあり充実した物になったのではないかと思います。今号ではオピニオンは休載しましたが、次号から再会の予定ですので投稿をお願いします。（M）